


第4号様式（8関係）


8年 1月 22日

「創意と活力」のある学校づくり推進事業報告書

春日井市立 藤山台中学校

校長 西崎 慎也

事業テーマ	一人一台端末を活用することで生きた知識を育む授業と、ソーシャルスキルを身につける活動から、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる生徒の育成	
取組の目的	これまで、リーディングDX指定校として、「生きた知識を育てる授業の実現」「ICTの日常的な有効活用」「SSTとSGEの実施」を具体的な手段の柱として研究実践を進めてきた。この実践により、子どもの学ぶ姿にも、指導に当たる教員の姿にも変化が見られるようになってきた。その一方、人間関係の行き詰まりから、不登校になる生徒や卒業後に人間関係の悩みを抱える生徒もいる。これらことから、本事業を行うことによって、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる生徒の育成を目的とする。	
区 分 (○印を付ける)	新規事業・継続事業(総事業年数 3年間、2年目)	
継続事業の場合、昨年度の課題を踏まえて対応した内容	昨年度は、反省として1学期の校内授業研究会を新しく赴任した教員がどのように関わるかを課題としていたので、本年度は1学期に新しく赴任した教員を中心に授業を公開し、学びの場とした。	
事業名	事業内容	実施 時期
外部講師を招いての研修会	<p>具体的手段の理解と指導技術の向上のために、大学教授などを招いて研修を行う。</p> <p>① 校内授業研究会（1学期）</p> <p>② ふじっこタイム研修会</p> 	毎学期 (計5回)

	<p>③ 道徳授業研究会（2学期）</p>  <p>④ 校内授業研究会 ⑤ 校内授業研究会（3学期）</p>	
現職教育及び研修	<p>教員の指導技術の向上のために現職教育を行う。また、その資料作成のために書籍を購入する。さらには、先進的な学校へ学びに行く。</p>	通年
I C Tの有効活用	<p>I C Tに関する書籍や消耗品等の購入により、これまで以上の有効活用を目指す。</p>	通年
<p>取組の成果</p> <p>今年度は、S S TとS G Eの研修に加え、先進校への視察を行った。自校の取組を比較してみることで、自校の取組の改善に繋がった。さらに、本年度から道徳指導にも力を入れるため、外部の講師をお招きして研修会を行った。これまで、道徳の授業に悩んでいた教員からは「道徳の授業のつくり方のヒントになった」などの声が聞かれた。</p>		
<p>課題</p> <p>今年度は、S S Tに関わる研修、道徳指導の研修ともに講師の先生方に師範授業を行っていた。次年度は本校の教員が行う姿を見ていただき、価値づけをしていただきたい。</p>		